学生の実習目標達成に向けた「教員と実習指導者の連携」を推進する教員の教授活動
―教員と実習指導者の知覚の一致・不一致に着目して―

本研究の目的は、教員と実習指導者の知覚が一致する「教員と実習指導者の連携」（以下、連携とする）のための教員の教授活動と、両者の知覚が一致しない教員の教授活動を明らかにすることである。また、それらの特徴の考察を通して、連携上の困難克服に向けた教授活動の改善への示唆を得ることである。

本研究は、次の２段階を経た。

第１段階は、実習指導者が知覚した連携のために教員が実践している教授活動を明らかにした。パイロットスタディおよび全国の病院、訪問看護ステーション、介護老人保健施設・介護老人福祉施設、保健所・保健センターに所属する実習指導者を対象に、質問紙を総数 1031 部配布し、481 部を回収した（回収率 46.6%）。このうち、実習指導者が知覚した連携のために教員が実践している教授活動を問う質問に回答した 455 名の記述を、Berelson, B. の方法論を参考にした看護教育学における内容分析を用いて分析した。分析の結果、実習指導者が知覚した連携のために教員が実践している教授活動を表す 36 カテゴリが形成された。Scott, W. A. の式によるカテゴリの一致率は、86.8%、78.4%であり、信頼性を確保していることを確認した。

第２段階は、修士論文の研究成果「連携のために教員が実践している教授活動」38 カテゴリと、第１段階の研究成果「実習指導者が知覚した連携のために教員が実践している教授活動」36 カテゴリを比較・統合した。分析方法には、Noblit & Hare の手続きを用いた。分析の結果、教員と実習指導者の知覚が一致する連携のための教員の教授活動 33 種類が明らかになった。それらは、〖学生の学習状況、クライエントの安全確保、実習指導者の業務状況を考慮した指導の適任者を実習指導者とともに検討し、指導の担当を依頼する〗〖学生の受け持ちクライエントに対する援助時の安全確保の方法を相談する〗〖学生個別の問題状況を説明し問題克服に向けた指導を依頼する〗などであった。また、教員のみが知覚している連携のための教員の教授活動３種類、実習指導者のみが知覚している連携のための教員の教授活動６種類が明らかになった。

教員と実習指導者の知覚が一致する連携のための教員の教授活動 33 種類を考察した結果、連携の推進に向けて教員と実習指導者が相互に知覚しておく必要のある８つの内容が見出された。それらは、＜実習目標と学習内容＞＜学生個別の学習状況と目標達成度＞＜実習目標達成に活用可能な学習機会と資源＞＜教員と実習指導者が一貫して指導する内容と方法＞＜相互に期待する役割とその遂行状況＞などであった。また、連携上の困難克服に向けて、教員は、これらの要素が連携の推進につながることを理解し、実習指導者にも知覚されるように実践することの重要性を示唆した。

本研究の成果は、教員が、直面している連携上の困難克服に向けて、「教員と実習指導者の連携」のために実践している教授活動に対する課題を、両者の知覚の一致という視点から明確にすることを助ける。また、それに基づく教授活動の改善に活用できる可能性がある。

今後の課題は、第２段階の研究により明らかにした、教員と実習指導者の知覚が一致する連携のための教員の教授活動 33 種類、教員のみが知覚する連携のための教員の教授活動３種類、実習指導者のみが知覚する連携のための教員の教授活動６種類が、実際に連携を推進するか否かを確認することである。